

シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

看護学科 実習科目

2026 年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

別表 I - 6

看護学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則	学校指定		1年次		2年次		3年次		
				単位数	時間数	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理科学	14	1	30	1	30					
		情報科学		1	15	1	15					
		生活科学		1	15	1	15					
	人間と生活・社会の理解	教育心理学		1	15			1	15			
		社会学		1	15	1	15					
		社会心理学		1	15	1	15					
		心理関係論		1	30	1	30					
		人間関係論		1	30	1	30					
		カウンセリング論		1	15			1	15			
		家族論		1	15			1	15			
		地域論		1	15	1	15					
		英語 I		1	30	1	30					
		英語 II		1	30	1	30					
		運動と健康 I		1	30	1	30					
運動と健康 II	1	30	1	30			1	15				
基礎分野・小計		14	14	285	10	225	4	60	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと 回復の促進	生化学	16	1	30	1	30					
		人体の構造と機能総論		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 I		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 II		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 III		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 IV		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 V		1	30	1	30					
		疾病治療総論		1	30	1	30					
		微生物学と感染症		1	30	1	30					
		疾病治療論 I		1	30	1	30					
		疾病治療論 II		1	30	1	30					
		疾病治療論 III		1	30	1	30					
		疾病治療論 IV		1	30	1	30					
		疾病治療論 V		1	30			1	30			
		疾病治療論 VI		1	30			1	30			
		臨床薬理学		1	30	1	30					
	健康支援と 社会保障制度	総合医療論		6	1	15	1	15				
		公衆衛生学			1	15			1	15		
		社会福祉論 I			1	15	1	15				
		社会福祉論 II			1	15			1	15		
		関係法			1	15					1	15
		医療と経済			1	15					1	15
専門基礎分野・小計		22	22	570	16	450	5	105	1	15		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	11	1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 I		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 II		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 III		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 IV		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 V		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 VI		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 VII		1	30	1	30					
		看護過程		1	30			1	30			
		看護研究		1	30					1	30	
		臨床看護総論		1	15	1	15					
	地域・在宅看護論	基礎看護学実習 I	3	1	45	1	45					
		基礎看護学実習 II		2	90			2	90			
		地域・在宅看護学概論		6	1	30	1	30				
	地域・在宅看護学方法論 I	1	15				1	15				
	地域・在宅看護学方法論 II	1	15				1	15				
	地域・在宅看護学方法論 III	1	15				1	15				
	地域・在宅看護学方法論 IV	1	30				1	30				
	地域・在宅看護学方法論 V	1	30				1	30				
	地域・在宅看護学実習	2	2	90					2	90		
	成人看護学	成人看護学概論	6	1	30	1	30					
		成人看護学方法論 I		1	30			1	30			
		成人看護学方法論 II		1	30			1	30			
		成人看護学方法論 III		1	30			1	30			
		成人看護学方法論 IV		1	30			1	30			
		成人看護学方法論 V		1	30			1	30			
	老年看護学	成人看護学実習 I	2	2	90			2	90			
		成人看護学実習 II		2	90					2	90	
		成人看護学実習 III		2	90					2	90	
	小児看護学	老年看護学概論	4	1	30	1	30					
		老年看護学方法論 I		1	30			1	30			
		老年看護学方法論 II		1	15			1	15			
		老年看護学方法論 III		1	30			1	30			
		老年看護学実習 I		2	2	90			2	90		
	母性看護学	老年看護学実習 II	2	2	90					2	90	
		小児看護学概論		4	1	30	1	30				
		小児看護学方法論 I			1	15			1	15		
		小児看護学方法論 II			1	30			1	30		
	小児看護学方法論 III	1	30				1	30				
	精神看護学	小児看護学実習	2	2	2	90				2	90	
		母性看護学概論		4	1	30	1	30				
		母性看護学方法論 I			1	15			1	15		
母性看護学方法論 II		1			30			1	30			
母性看護学方法論 III		1			30			1	30			
母性看護学実習	2	2	90						2	90		
看護の統合と実践	精神看護学概論	4	1	30	1	30						
	精神看護学方法論 I		1	15			1	15				
	精神看護学方法論 II		1	30			1	30				
	精神看護学方法論 III		1	30			1	30				
	精神看護学実習		2	2	90					2	90	
看護の統合と実践	看護の統合と実践 I	4	1	30			1	30				
	看護の統合と実践 II		1	30			1	30				
	看護の統合と実践 III		1	15					1	15		
	看護の統合と実践 IV		1	30					1	30		
	看護の統合と実践実習		2	2	90					2	90	
専門分野小計		66	66	2,190	16	480	31	915	19	795		
合計		102	102	3,045	42	1,155	40	1,080	20	810		

授業科目名	基礎看護学実習 I	実務経験講師	○
担当教員名	全教員	実務経験	看護師
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	5 日間
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	看護実践の場で体験を通して看護とは何かを考え、看護を学ぶ上で必要な基本姿勢を学ぶ。対象を取り巻く環境(物的・人的環境)が、対象の健康・生活へ及ぼす影響を知り、学校で学習した知識・技術・態度をもとに根拠をもって必要な看護を実践する。		
授業科目の到達目標	1. 7月: 1)対象をとりまく療養環境を知り、人的環境や物的環境が対象に及ぼす影響を知る。 2)病院で働く職種とその活動内容から、医療チームの役割について知ることができる。 3)対象と関係を構築するためにコミュニケーション技術を活用することができる 2. 12月: 1)対象の生活習慣や環境、思い、身体状況について情報収集ができる 2)バイタルサイン測定やフィジカルイグザミネーションを安全に実施できる 3)健康障害が対象に与える影響がわかる 4)ニーズを充足させる日常生活援助を安全・安楽に実施できる。		

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	実習方法	記録用紙
1	7月 各実習病院	病院の概要:病院、看護部の理念・基本方針 対象の療養生活を支える多職種の活動について 対象を取り巻く療養環境:病棟の構造・配置 病室の環境・病床環境	病棟実習	指定の記録用紙
2	12月 各実習病院	病棟オリエンテーション、患者紹介・あいさつ 情報収集、コミュニケーション 対象の安全・安楽をふまえた日常生活援助	病棟実習	指定の記録用紙

使用テキスト	基礎看護概論、基礎看護技術 I、基礎看護技術 II
参考書・資料 等	看護がみえる①、看護がみえる②、看護がみえる③
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論 基礎看護学方法論 I～V、臨床看護総論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論 VI・VII 基礎看護学実習 II
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	講義で学習した健康障害を抱えて療養生活をおくる対象者の、療養環境や療養生活に目を向け、生活者である対象の日常生活を援助する意義について理解を深めて欲しい。

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ		実務経験講師	
担当教員名			実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	2年次	授業回数		
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間	
実習の概要	基礎看護学において学習した知識、技術、態度をもとに、入院している対象者の身体的・精神的・社会的側面をハンダーソンの看護論に基づき考え、看護過程の展開をする。			
実習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的欲求に影響を及ぼす常在、病理的状态について情報収集ができる 2. ハンダーソンの看護論を用いて3側面からアセスメントを行い、看護問題を抽出することができる 3. 看護計画を立案し、立案した看護計画に沿って実施・評価をすることができる 4. 看護者として必要な基本的な態度を身につけ、自己を振り返ることができる 5. 看護への興味・関心を高めることができる。 			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	実習方法	記録用紙
1	9月 各実習病院	情報収集、情報の分類・整理 情報の分析、優先順位の決定、看護問題の明確化 看護計画立案、看護計画実施、看護計画評価、 看護計画評価後の追加・修正	病棟実習	指定の記録用紙

使用テキスト	基礎看護概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、疾病治療論
参考書・資料 等	看護がみえる①、看護がみえる②、看護がみえる③、看護がみえる④
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、生化栄養学、臨床薬理学、微生物学と感染症、疾病治療論、 人間関係論、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅶ、臨床看護総論、看護過程 基礎看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅴ、老年看護学方法論Ⅲ、小児看護学方法論Ⅲ、母性看護学方法論Ⅲ、精 神看護学方法論Ⅲ、看護研究、看護の統合Ⅲ・Ⅳ 成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習 地域・在宅看護論実習、看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	ハンダーソンの看護論に当てはめながら実際の対象者へ看護展開をする初めての機会である。今まで学んできた知識・技術・態度を今回の実習を通して更に研鑽し、領域の看護過程や各論実習へ繋げて欲しい。

授業科目名	地域・在宅看護論実習	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026年度	学期	全期
年次	3年次	授業回数	
単位数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>在宅看護論実習では、訪問看護ステーション実習、地域包括支援センター実習、福祉用具事業実習、退院調整実習での実習を通して、地域の中で療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の場・機能・役割の実際について学ぶことを目的とする授業科目です。</p> <p>訪問看護ステーション実習では、疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、訪問看護師としてどのような看護介入ができるか考えられることを目指します。また、訪問看護師にとって多職種や関係機関との連携、調整や社会資源の関するケアマネジメントも訪問看護師にとって重要な役割となります。同行訪問での事例を通して、社会資源の理解や関係職種の連携について考えられることを目指します。</p> <p>地域包括支援センター実習では、支援を行う対象、利用者のニーズ、地域包括支援センターが地域に果たす役割について学ぶとともに、事業の実際を学びその必要性について考えられることを目標とします。また、地域包括ケアにおける多職種連携の実際を理解することを目指します。</p> <p>福祉用具事業実習では、在宅で療養している人々とその家族が利用している社会資源と社会制度の関連性について理解することを目指します。</p> <p>退院調整実習(退院調整看護師の役割)では、退院調整看護師が患者や家族が在宅や地域で自分らしく過ごすことを支援し、地域をつなぐ役割を担っている現状を知り、医療と生活の両方の視点で多職種に対してリーダーシップやマネジメントを行うことの重要性について理解することを目指します。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の特性及び健康問題を知り、それに対する保健医療福祉サービスの現状について述べることができる 2 あらゆる健康状態にある対象とその家族を理解し、適切な在宅看護援助の方法について述べることができる 3 対象とその家族の価値観を尊重し、信頼関係を築くためのコミュニケーション技術が実践できる 4 在宅療養を支えるシステムを理解し、その関係職種の役割と連携、社会資源の活用について述べるができる 5 実習を通して看護観・家族観を深めることができる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	<p>【学内】オリエンテーション</p> <p>在宅看護論実習に必要な知識、技術の確認</p> <p>①訪問看護ステーション実習:知識の確認</p> <p>②地域包括支援センター実習:知識の確認</p> <p>③福祉用具事業実習:知識の確認</p> <p>看護技術の練習</p>	<p>学内</p> <p>グループワーク</p> <p>個人ワーク</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録</p>
2	<p>訪問看護ステーション実習</p> <p>事業所でのオリエンテーション</p> <p>同行訪問する療養者の選定および療養者の紹介</p> <p>情報収集</p> <p>バイタルサイン測定・コミュニケーション</p> <p>援助の一部介助・援助見学</p>	<p>訪問看護ステーション実習</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 1、2、3</p>
3	<p>訪問看護ステーション実習</p> <p>情報収集</p> <p>バイタルサイン測定・コミュニケーション</p> <p>援助の一部介助、実施・援助見学</p>	<p>訪問看護ステーション実習</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 1、2、3</p>
4		<p>訪問看護ステーション実習</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 1、2、3</p>
5		<p>訪問看護ステーション実習</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 1、2、3</p>
6		<p>訪問看護ステーション実習</p> <p>カンファレンス:訪問看護ステーション実習での学び、ケースカンファレンス</p> <p>個人ワーク</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 1、2、3</p>
7	<p>福祉用具事業見学</p> <p>オリエンテーション</p> <p>事業の見学</p> <p>記録整理(地域・在宅看護論記録 7、9)</p>	<p>福祉用具事業実習</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 7、9</p>
8	<p>【学内】</p> <p>訪問看護ステーション実習の学びの共有</p> <p>記録整理(地域・在宅看護論記録 1、2、3)</p> <p>深掘学習選択事例の疾患・治療・看護、療養上の問題と看護介入の方法の追加・修正</p> <p>訪問看護ステーション実習振り返りまとめ</p>	<p>学内</p> <p>個人ワーク</p> <p>カンファレンス:訪問看護ステーション実習学びの共有会</p> <p>振り返り</p>	<p>地域・在宅看護論実習</p> <p>記録 1、2、3、9</p>

9	①地域包括支援センター実習 オリエンテーション	地域包括支援センター実習	地域・在宅看護論実習記録 4、5、6
10	事業の見学、同行訪問 記録整理(地域・在宅看護論記録 4、5、6、9)	地域包括支援センター実習	地域・在宅看護論実習記録 4、5、6、9
11	【学内】 地域包括支援センター実習の学びの共有 地域包括支援センター実習振り返りまとめ 記録整理 (地域・在宅看護論記録 1、2、3、4、5、6、7、9) 看護観、家族感について自己の考えをまとめる	学内 カンファレンス:地域包括支援センター実習での学び 個人ワーク	地域・在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5、6、7、9
12	退院調整部門(退院調整看護師の役割)実習 講義 記録整理(地域・在宅看護論記録 8)	学内 個人ワーク	地域・在宅看護論実習 8

使用テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論 1/医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論 2/医学書院 3. ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア/メディカ出版
参考書・資料 等	地域・在宅看護論実習 クイックノート
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ 関係法規、社会福祉 公衆衛生学 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 疾病治療論Ⅰ～Ⅵ 基礎看護学概論 基礎看護学臨床看護総論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 成人看護学概論 老年看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 精神看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ、在宅看護論方法論Ⅱ、在宅看護論方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習 看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	在宅看護論実習の受講には、実習前に以下の科目を全て修得している必要がある。 ・在宅看護論概論・在宅看護論方法論Ⅰ・在宅看護論方法論Ⅱ・在宅看護論方法論Ⅲ 12 回目の退院調整部門(退院調整看護師の役割)実習は夏季期間に臨床講義となります。そのため、実際の在宅看護論実習スケジュールでは振替日になります。

授業科目名	成人看護学実習 I (周術期)	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026 年度	学 期	全期
年 次	3 年次	授業回数	
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	成人看護学実習 I では周術期の対象を受け持ち、術前・術後の看護、ボディイメージの変化に伴う看護を学びます。また、手術室の見学を行い術中の対象者の状態を知り、術後の看護を考える視点を学びます。また術後の回復期には、二次障害の予防と社会復帰に向けて生活の自立を目指すリハビリテーションについて学ぶとともに、看護の継続性について理解を深めます。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある対象および家族の特徴について述べられる 2. 対象に行われている検査・処置の目的が述べられる 3. 手術に至るまでの経緯についてアセスメントできる 4. 術前の患者・家族の心理・社会的側面を理解できる 5. 手術・麻酔が身体に及ぼす影響について述べられる 6. 手術が心理・社会的側面に及ぼす影響について述べることができる 7. 術後合併症や二次的障害について述べることができる 8. 周術期にある対象の症状・反応を観察しながら、安全・安楽・自立に配慮した援助ができる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内日①】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用いた実習の説明 実習室にて1Gが 1 ベッドを使用し、指示された課題チェック表を用いて技術練習を行う	成人看護過程様式 1 号 技術練習課題用紙
2	病棟オリエンテーション 情報収集 (vs 測定含む) 情報の分類・整理 ※手術を受ける対象・家族の心理、社会的状況について述べる	病棟実習 カンファレンス: 個人目標・G 目標発表、本日の気づきや学びの共有	看護過程様式 2・3・5・7 号 成人看護過程様式 2 号
3	援助(見学・一部介助) 情報収集・情報の分類 看護問題の明確化①	病棟実習	看護過程様式3・5・7 号 成人看護過程様式 2 号
4	情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価 看護問題の明確化②	看護問題の 方向性の個人指導	看護過程様式 2・3・5・7 号 成人看護過程様式

			2号
5	【学内日②】 看護問題の明確化③ 1~4号用紙の記入 特に8号分析・解釈を進める 学習会計画書作成	関連図(成人看護過程様式2号)の提出 学習会計画書に必要事項を記載し、教員に提出し添削を受ける	看護過程様式3・5・7号 成人看護過程様式2号
6	情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価	カンファレンス 今まで実施した看護の発表	看護過程様式3・5・7号 成人看護過程様式2号
7	援助 情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価	カンファレンス 今まで実施した看護の発表	看護過程様式3・5・7号 成人看護過程様式2号
8	援助 情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価	ケースカンファレンス	看護過程様式3・5・7号 成人看護過程様式2号
9	【学内日③】 学習会資料の作成 学習計画書に基づき資料を作成 記録の記入 実施・評価	テキストや図書館の文献を用い 使用し資料を作成する	看護過程様式3・5・7号
10	計画実施・評価(追加・修正)		看護過程様式3・5・7号
11	計画実施・評価(追加・修正)	カンファレンス 成人看護学実習を通しての学び・気づき、今後の課題	看護過程様式3・5・7号
12	【学内日④】 振り返りをグループ全体で行い記録用紙に記入し、担当教員に提出する		まとめ

使用テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 ヌーバルヒロカワ 系看 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系看 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 ナースのためのくすりの事典 2020 へるす出版 検査値ガイドブック</p>
参考書・資料 等	対象に合わせて選択

この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ～Ⅱ
成績評価の方法	評価表参照
その他 受講生への要望等	対象の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助ができるようすすめます。カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ(健康段階別)		実務経験講師
担当教員名	実習担当教員		実務経験
開講年度	2026年度	学 期	全期
年 次	2～3年次	授業回数	
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	成人看護学実習Ⅱは担当した急性期の対象に合わせて看護過程の展開を行います。成人期は、身体的・生理的諸機能が成熟し、安定した時期であると同時に、家庭内の責任や社会的役割が重くなっており、疾患を持つこと、入院することが、対象および家族に及ぼす影響は大きいとされています。急性期は、身体機能の急激な低下により生命の危機に陥りやすく身体機能の悪化の早期発見と回復の促進、心理・社会的危機の回避、日常生活行動の支援、社会的支持が必要となります。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象及び家族の特徴、役割が述べられ、どのように療養生活に影響しているか分かる 急性期にある対象の病態をふまえたアセスメントができる 疾病及び対象に出現している症状をアセスメントできる 療養が対象及び家族の価値観をふまえてアセスメントし、目標や援助計画の立案、看護援助の実施・評価・修正ができる 急性期における保健医療チーム内での看護の役割が理解できる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内日①】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用いた実習の説明 実習室にて患者を想定し技術練習、事前学習の不足内容を追加修正する。	看護過程様式 5号 看護過程様式 7号 事前学習
2	【臨地実習①】 病棟オリエンテーション 情報収集(VS測定含む) 情報の分類・整理	カンファレンス: 個人目標・G目標発表、本日の気づきや学びの共有	看護過程様式 3号 看護過程様式 5号 看護過程様式 7号 事前学習
3	【臨地実習②】 援助(見学・一部介助) 情報収集・情報の分類	患者の1日の様子から、生活リズム・ADL・症状などについて情報収集/日常生活動作一部介助	看護過程様式 3号 看護過程様式 5号 看護過程様式 7号
4	【臨地実習③】 情報収集・情報の分類 看護実施・評価	関連図より患者の全体像からの看護問題の抽出し看護の方向性について個人指導	看護過程様式 3号 看護過程様式 5号 看護過程様式 7号
5	【学内日②】 情報への記録整理・関連図に対して追加修正	朝、関連図の提出 学習会計画書に必要事項を記載し、教員に提出し添削を受ける	看護過程様式 3号 看護過程様式 5号 看護過程様式 7号
6	【臨地実習④】		看護過程様式 3号

	看護の実践と評価		看護過程様式 5号 看護過程様式 7号
7	【臨地実習⑤】 救急外来実習 救急医療の場の特殊性、看護師の役割、主な治療/処置方法を学ぶ	8:30~16:00 まで救急外来室にて、指導者看護師の元、救急医療を学ぶ	成人看護過程様式 1/2号
8	【臨地実習⑥】 看護実践と評価	カンファレンス 成人実習を通しての学び、個人目標/グループ目標の振り返り	看護過程様式 3号 看護過程様式 5号 看護過程様式 7号
9	【学内日③】 関連図をもとに、対象の全体像の追加修正		看護過程様式 5号 看護過程様式 7号
10	【学内日④】 成人実習Ⅱを通してのまとめと学び 急性期における国家試験対策問題を解き、振り返り学習実施		看護過程様式 5号 まとめ
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 ニーベルヒロカワ ナースのためのくすりの事典 2017 へるす出版 検査値ガイドブック 他		
参考書・資料 等	対象に合わせて選択		
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ		
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ～Ⅱ		
成績評価の方法	評価表参照		
その他 受講生への要望等	対象の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個性のある援助ができるようすすめます。カンファレンスなどから、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。		

授業科目名	成人看護学実習Ⅲ(健康段階別)	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	全期
年 次	2～3年次	授業回数	
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>成人看護学実習Ⅲは担当した対象の病期(回復・慢性・終末期)に合わせて看護過程の展開を行います。成人期は、身体的・生理的諸機能が成熟し、安定した時期であると同時に、家庭内の責任や社会的役割が重くなっており、疾患を持つこと、入院することが、対象および家族に及ぼす影響は大きいとされています。急性期は、身体機能の急激な低下により生命の危機に陥りやすく身体機能の悪化の早期発見と回復の促進、心理・社会的危機の回避、日常生活行動の支援、社会的支援が必要となります。回復期では、機能障害および生活能力の障害により継続的な援助を必要とする人と家族への健康問題を包括的に理解し、専門的援助を行うために必要な看護実践能力を培うことをめざします。慢性期では、成長発達の特徴や健康障害によって影響する生活の QOL に焦点をあてた、看護について学んでいきます。人生の終末を生きる終末期では対象を全人的に理解し、おかれた状況に応じた援助の実際を学びます。また、対象の苦痛を緩和し、よりよい日常生活を送るための支援に必要な基礎的な看護実践能力を身につける実習を行っていきます</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な病期にある対象及び家族の特徴、役割が述べられ、どのように療養生活に影響しているか分かる 2. 様々な病期にある対象の病態をふまえたアセスメントができる 3. 疾病及び対象に出現している症状をアセスメントできる 4. 療養が対象及び家族の価値観をふまえアセスメントし、目標や援助計画の立案、看護援助の実施・評価・修正ができる 5. 保健医療チーム内での看護の役割が理解できる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	<p>【学内日①】</p> <p>1. 実習オリエンテーション</p> <p>2. 技術練習</p> <p>3. 受け持ち患者情報提供と事前学習</p>	<p>実習要項を用いた実習の説明</p> <p>実習室にて1Gが1ベッドを使用し、指示された課題チェック表を用いて技術練習を行う</p>	<p>看護過程様式 1・5・7号</p> <p>技術練習課題用紙</p>
2	<p>病棟オリエンテーション</p> <p>情報収集(VS測定含む)</p> <p>情報の分類・整理</p>	<p>病棟実習</p> <p>カンファレンス:</p> <p>個人目標・G 目標発表、本日の気づきや学びの共有</p>	<p>看護過程様式 1・2・3・5・7号</p> <p>充足未充足シート</p>
3	<p>援助(見学・一部介助)</p> <p>情報収集・情報の分類</p>	<p>病棟実習</p>	<p>看護過程様式 1～7号</p> <p>充足未充足シート</p>
4	<p>情報収集・情報の分類</p> <p>看護実施・評価</p>	<p>充足・未充足の決定、看護問題の</p>	<p>看護過程様式 1～7号</p> <p>充足未充足シート</p>

		方向性の個人指導	
5	【学内日②】 4号用紙の記入 4号用紙分析・解釈を進める 看護計画を立案する 学習会計画書作成	学内実習 関連図(成人看護過程様式2号)の提出 学習会計画書に必要事項を記載し、教員に提出し添削を受ける	看護過程様式 1～7号
6	情報の分類・整理 看護問題の明確化	#1看護計画個別指導	看護過程様式 1～7号
7	看護計画発表 計画実施・評価(追加・修正)	看護計画カンファレンス	看護過程様式 1～7号
8	看護計画実施・評価・修正		看護過程様式 1～7号
9	【学内日③】 学習会資料の作成 学習計画書に基づき資料を作成 記録の記入 実施・評価・修正	学内実習 テキストや図書館の文献を用い 使用し資料を作成する	看護過程様式 1～7号
10	計画実施・評価(追加・修正)		看護過程様式 1～7号
11	計画実施・評価(追加・修正)	カンファレンス 成人看護学実習を通しての学び ・気づき、今後の課題	看護過程様式 1～7号
12	学習会発表会準備 成人看護学実習の振り返りをグループ全体で行 い記録用紙に記入し、担当教員に提出する		まとめ
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ ナースのためのくすりの事典 2017 へるす出版 検査値ガイドブック 他		
参考書・資料 等	対象に合わせて選択		
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ		
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ～Ⅱ		
成績評価の方法	評価表参照		
その他 受講生への要望等	対象の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助ができるようすすめます。カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。		

授業科目名	老年看護学実習 I	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	2年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	多様な場(地域・老人施設など)で生活する高齢者とその家族の特徴を学ぶ。高齢者の加齢に伴う身体,心理,社会的側面の変化が、現在の生活や思いにどのような影響を及ぼしているのかを考え理解する。高齢者が望む、地域での生活を維持するために必要な、多職種間の連携,協働の必要性について学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 高齢期にある対象の身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2. 加齢変化が対象の健康・生活に及ぼす影響を理解できる 3. 高齢期にある対象の生活を支える職種の役割および連携について理解できる 4. 高齢期にある対象の価値観の多様性を理解し、尊重した態度がとれる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	学内実習(臨地実習中の学内実習2日間を含む)	・演習 (個人ワーク GW)	・コラムシート ・高齢者観シート
2	・実習前後で、高齢者の生活や思いに関するコラムを精読し、自身のもっ		
3	ている高齢者観に関心を寄せる		
4	・高齢者と、世代間交流を図る		
5	・臨地実習,世代間交流での経験を総括し、高齢者に対する情緒的理解		
6	を深める(自身の高齢者観を経験から考察する)		
7	老人福祉センター実習	・臨地実習	・実習日誌 ・生活史シート ・レクリエーション 活動計画書
8	・老人福祉センターの役割と機能を理解する ・高齢者の加齢に伴う身体的な変化とその機序について、理解する ・時代背景に関連する生活史から、高齢期を生きる対象の発達課題と価値観を知る、考えることができる(加齢に伴う心理的,社会的な変化) ・高齢者の特徴を踏まえたレクリエーション活動の計画,実践ができる。		
9	介護老人保健施設実習		
10	・介護老人保健施設の概要を理解する	・臨地実習	・実習日誌
11	・加齢や疾病により日常生活に支障をきたした高齢者の特徴を理解する		
12	・施設を利用する高齢者の自立を支援した(在宅での生活に向けた)日常生活の援助方法を理解する ・介護老人保健施設においての、看護師と多職種との連携,協働の必要性を理解する ・高齢期にある対象の言動や行動(価値観)を尊重した態度がとれる		

使用テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院
--------	----------------------

	<p>系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院</p> <p>パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社</p> <p>老年看護せんぶガイド/プチナース</p>
参考書・資料 等	老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	<p>既習の知識・技術をもとに、地域で生活する老年期の対象を理解できるよう尽力して下さい。</p> <p>特に「<u>老年看護学方法論Ⅰの授業資料</u>」を十分に活用し、<u>実習に臨んで下さい。</u></p>

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ		実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員		実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	通年	
年 次	2～3 年次	授業回数		
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間	
授業科目の概要	加齢変化に伴う身体,心理,社会的な変化と、疾病に伴う健康障害が、対象(老年者)のこれまで、これからの生活にどのような影響があるのかを理解する(総合的な理解)。その個別性に応じた老年看護技術を実践する。老年者が望む今後の生活を支えるために必要な、臨床現場での多職種間の連携,協働の必要性、看護師の役割について学ぶ。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化が理解できる。 2. 加齢変化・疾病に伴う健康障害による、日常生活への影響を理解できる。 3. 対象(老年者)の特徴に応じた、老年看護技術を実践,評価できる。 4. 保健医療福祉チームの一員として、連携,協働の必要性について理解できる。 5. 老年期にある対象とその家族の人生観・価値観等を理解し、尊重した態度がとれる。 6. 老年者に対する情緒的理解を高める(老年者観の育成)ことができる 			

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1,2	<p>【学内①②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習 OR ・患者選定 ・実習前の事前学習, 準備 ・受け持ち患者を想定した技術練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員からの説明 ・個人学習 ・個人指導 ・グループ目標の話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・様式 7 号 (行動計画)
2	<p>【臨地 1 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟OR ・情報収集 ・日常生活援助の見学 ・バイタルサイン測定, フィジカル実施 	<p>カンファレンス①</p> <p>「個人目標・グループ目標の発表」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護過程様式 7 号
3	<p>【臨地 2 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・情報の分類整理 ・日常生活援助の見学, 実施 ・充足, 未充足の判別, 優先順位の判断 		<ul style="list-style-type: none"> ・様式 1 号 3 号 7 号 ・老年様式 1 号 (病理的状态) ・老年様式 2 号 (14 項目情報整理)
4	<p>【臨地 3 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護問題#の抽出, 関連項目の判断 ・日常生活援助の実施 	<p>個人指導(指導者)</p> <p>→「1 次アセスメント」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様式 1 号 3 号 7 号 ・老年様式 1 号 ・老年様式 2 号
5	<p>【学内③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14 項目 原因誘因のアセスメント 	<p>個人指導(教員)</p> <p>→「2 次アセスメント」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老年様式 2 号 ・老年様式 3 号 (アセスメントシート)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出したすべての看護問題#に対する、援助の実施。その評価。 →実施する援助計画は、抽出した看護問題#に沿って、日々増えていくことが望ましい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・様式 1 号 3 号 7 号 ・老年様式 1 号 2 号 ・老年様式 3 号
7			<ul style="list-style-type: none"> ・老年様式 3 号 ・様式 7 号

8		カンファレンス② 「個人,グループ目標の振り返り」	・老年様式 3 号 ・様式 7 号
10	【学内④】 ・老年看護学実習Ⅱ 学びの整理 ・老年Ⅰ実習での経験, 学びも統合し、 自身の考える高齢者への思いについて考える	・個人学習 ・高齢者観シートの作成	

使用テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学・老年看護病態・疾患論 パーフェクト臨床実習ガイド ・ 老年看護ゼンバガイド
参考書・資料 等	地域療養を支えるケア/メディカ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ 老年看護学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	「老年看護学方法論Ⅲの授業資料」を十分に活用し、実習に臨んで下さい。

授業科目名	小児看護学実習	実務経験講師	
担当教員名	古川優子	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	10日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>小児看護学実習では対象の理解を深めるため、保育園で健康児との関わりを通し、成長発達段階の具体的なイメージを形成します。それらをベースとして、小児病棟では健康が破綻した児の成長発達段階・健康段階に応じた看護が実践できる基礎的能力を養います。また、医療的ケアを必要とする子どもと家族について知り、対象を支える多職種についても学んでいきます。小児看護学実習では、患児だけでなく家族も看護の対象であることの認識を深め、家族に対する看護展開も考えていきます。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康な子どもの成長発達を理解し、適切な日常生活の援助、事故防止に努めることができる 2.医療的ケアを必要とする子どもと家族を支える多職種連携について学ぶことができる 3.子ども及び家族の看護上の問題を明確にし、子どもの発達段階を考慮した看護が実践できる 4.子どもをひとりの人格をもった人間として尊重し、自己の子ども観を形成することができる 5.看護者として必要な基本的な態度を身につけ、自己を振り返ることができる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1 4	【病棟実習】 オリエンテーション 受け持ち紹介(児・家族) 看護過程展開	病棟実習 情報収集 カンファレンス	看護過程様式1~4号、 7号
		病棟実習 情報収集 アセスメント 看護問題の明確化	看護過程様式1~5号、 7号
		病棟実習 看護実践 看護計画立案	看護過程様式1~7号
		病棟実習 看護計画実施・評価 カンファレンス	看護過程様式1~7号
5	【学内】 病棟実習の記録整理、ケース発表会	学内 記録指導	看護過程様式1~7号 プロセスチャート

8	【保育園】 0歳～5歳までの事前に決めたクラスに入り、保育士とともに 保育の実際を見学、実践する。	保育園実習 最終日：カンファレンス	小児看護学実習記録様式1～2号
9	【とちぎ子ども医療センター】 臨床講義 とちぎ子ども医療センター病棟見学 院内分教室見学 マクドナルドハウスとちぎ施設見学	臨床講義 院内見学 施設見学	小児看護学実習記録様式3号
10	【学内】 記録整理 国家試験問題チャレンジ、ミニ講義 実習振り返り(面談・自己評価)	学内 記録指導 解説講義 面談	振り返り 自己評価

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	小児看護学実習の受講には、実習前に以下の科目の単位を修得している必要がある。 小児看護学方法論Ⅲ

授業科目名	母性看護学実習	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	母性看護学実習では、妊婦、産婦、褥婦、新生児を中心に生理的な経過を判断し、ヘルスプロモーションに向けた看護を考える実習としたい。出産や育児は、心理的不安が増す傾向があり、母親のみならず家族を含めた支援が母性看護の大きな役割の一つである。実習では実際に生命の誕生や、幼い命を育む過程に触れることで命の尊さを実感する機会となる。自己の親性観(母性観・父性観)についても考える機会となる。また、健康教育・保健指導は母性のヘルスプロモーションのために必要な看護技術である。対象のライフステージに応じた看護について、保健指導案を作成し、保健指導を実践することで学習する。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊・産・褥婦の、周産期における経過を理解し、個々の状態に応じた援助が出来る。 2. 妊・産・褥婦の心理を理解し、母性意識の形成発展、新たな家族機能の構築に向けた援助を考察する。 3. 児の生理的な経過を理解し、胎外生活の適応に向けた援助が出来る。 4. ライフステージにおける対象の健康と健康問題について考察し、保健指導が出来る。 5. 自己の親性観(母性観、父性観)を深める。 		

授業スケジュールと内容

実習日			学習内容	記録
OR日 ／		学内	AM:オリエンテーション 実習・保健指導 PM:母性看護技術の確認・実施 初日の行動計画作成	
1日目 ／	周産期看護実習	病棟①	病棟オリエンテーション 受け持ち紹介(母児) 母子一体の看護過程の展開 <ul style="list-style-type: none"> ▪ VS・全身状態の観察 ▪ 看護援助 ▪ 指導見学 ▪ 分娩見学 アセスメント <ul style="list-style-type: none"> ▪ 妊娠期・分娩期 ▪ 出生直後の新生児 ▪ 産褥期・新生児期 	1～6号
2日目 ／		病棟②		
3日目 ／		病棟③		
4日目 ／		病棟④		
5日目 ／		病棟⑤		
6日目 ／	保健指導 保健事業 実習	臨地 (半日) 学内① (半日)	AM:9:00~12:00 子育て支援センター PM:13:00~16:15 保健指導オリエンテーション 指導案・教材作成	7～8号 9号

7日目 /		学内②	指導案・教材作成 リハーサル	
8日目 /		学内③	AM:指導実施・リフレクション 記録整理 PM:国家試験学習 講義資料作成	
9日目 /		学内④	AM:国家試験学習 Output ミニ講義 PM:母性看護における倫理 DVD 視聴	12号
10日目 /	臨地①②のため代休			
①		臨地	13:30~16:00 子ども家庭センターの役割と実際	10号
②		臨地	9:30~12:30 女性のライフサイクル支援 男女共同参画の意義と活動内容	11号

*日程は変更あり スケジュールは各実習ごとに提示

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
参考書・資料 等	母性看護学実習 クイックノート 照林社 病気がみえる⑩産科 MEDIC MEDIA パーフェクト臨床実習ガイド 第2版 母性看護 照林社 ウエルネスから見た母性看護過程 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	・母性看護学概論 ・母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	母性看護学実習の受講には、実習前に、以下の科目を全て修得している必要がある。 ・母性看護学概論 ・母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ

授業科目名	精神看護学実習	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	全期
年 次	2～3 年次	授業回数	
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	精神障害を持つ対象と関わり、対人関係を形成して必要な援助の実践を通し、精神保健医療福祉領域における看護の役割と機能、地域生活支援のあり方、精神障害を持つ対象とその家族に対する看護実践に必要な基礎的知識を学びます。精神科病棟や事業所で実習を行い、病棟－地域をつなぐ切れ目のない支援について理解を深めていきます。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害を持つ対象を理解し、対象に応じた援助が実施できる。 2. 精神障害を持つ対象との関わりを通して自己洞察し、対象との関係を深めることができる。 3. 精神看護における倫理観や精神障害者観を養う。 4. 地域で暮らす精神障害を持つ対象の想いを知り、地域で暮らすための支援について理解を深める。 5. 精神障害を持つ対象に関わる保健医療福祉チームにおける連携・協働を理解できる。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内①】 ・病棟実習オリエンテーション ・病棟実習に向けての事前学習	・個人ワーク ・知識確認テスト	7 号
2	【病棟実習・1 日目】 ・病棟オリエンテーション ・情報収集 ・コミュニケーション	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	1～3 号 アセスメントシート 7 号
3	【病棟実習・2 日目】 ・情報の分類、整理 ・日常生活援助の見学、実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助の見学や実施をする。	1～3 号 アセスメントシート 7 号
4	【学内②】 ・情報の整理、分析 ・プロセスレコードの記入	・教員より指導を受けながら思考の整理や関わりについて振り返る。	1～3 号 アセスメントシート 7～8号
5	【病棟実習・3 日目】 ・情報の整理、分析 ・日常生活援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。 ・カンファレンス	1～3 号 アセスメントシート 7 号
6	【病棟実習・4 日目】 ・日常生活援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。 ・カンファレンス	1～3 号 アセスメントシート 7 号

	*病棟実習期間中に下記内容の見学や体験の実施 隔離室入室体験、身体拘束体験、デイケア見学、電気けいれん療法見学		
7	【学内③】 ・事業所実習に向けての事前学習 ・事業所実習オリエンテーション	・個人ワーク	9号 10号
8	【事業所・1日目】 ・オリエンテーション ・プログラムに参加	・指導者より指導を受けながら実習する。	10号
9	【事業所・2日目】 ・プログラムに参加	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	10号
10	【学内④】 ・精神看護を語る会の実施	・実習での体験をまとめて発表しメンバーと 学びを共有する	
11	【学内⑤】 ・実習記録の整理 ・実習のまとめ、振り返りの記入 ・知識の確認	・個人ワーク ・知識確認テスト	まとめ・振り返り

使用テキスト	専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院
参考書・資料 等	精神看護学実習 クイックノート
この授業科目の前提となる主な科目	精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合と実践実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	精神障害者との直接的な関わりを通して、精神障害者に対するイメージが肯定的に変化したり、対象理解が進むことで患者－看護師関係が発展していく感動を経験しましょう。

授業科目名	看護の統合実習	実務経験講師	
担当教員名	実習担当教員	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	3年次	授業回数	11日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	保健・医療・福祉チームの一員として、臨地での看護活動の実際を経験することで、既習の知識・技術・態度を活用した看護実践能力を養い、卒業後の看護活動に適応できる能力を培います。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際と、組織における看護師の役割と機能について理解できる。 2. 病院及び病棟における医療安全及び感染対策の実際を理解できる。 3. 特定の専門領域における看護師の役割と、病院内における業務の実際について理解できる。 4. チーム医療の中で多職種と協働について考え、看護師の役割、病院内における業務の実際について理解することができる。 5. チーム医療における看護師の役割について理解できる。 6. 複数患者の看護において、優先順位の判断や時間管理を意識した行動ができる。 7. 実習での経験を振り返り、将来の看護実践者としての自己の課題を明確にできる。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 病院実習について	学内	
2	臨床講義 1. 病院組織における看護管理と看護部長の役割、機能について知る 2. 特定の専門領域における看護師の役割、病院内における業務の実際について知る	講義	実習記録 3号
3	病院実習 1. 病棟管理者の役割と機能について知る(半日) 2. リーダーの役割と業務の実際を知る(1日) 2. メンバーの役割と業務の実際を知る 3. チームの一員として優先順位を考えて行動できる(3日) 4. 夜間の看護師の役割と業務の実際を知る (1日) 5. 外来・入退院支援室での看護師の役割と業務の実際を知る(1日) 6. 特定の専門領域における看護師の役割を知る(半日)	病棟実習 業務見学・講義 カンファレンス: 実習のまとめ	実習記録 3号
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

11	【学内】 実習の振り返り・まとめ	個人ワーク グループワーク	実習記録6号
----	---------------------	------------------	--------

使用テキスト	これまで使用したテキスト全般
参考書・資料 等	各科目の授業資料
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学、看護学概論、成人看護学実習、老年看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習、臨床看護実践論、看護の統合と実践Ⅰ（医療安全、看護倫理、看護管理）、看護の統合と実践Ⅱ（国際看護、災害看護） 看護実践マネジメント/医療安全
この授業科目から発展する主な科目	科目全般
成績評価の方法	評価表に準じて評価します
その他 受講生への要望等	本実習は、基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅、看護の統合と実践で学んだ既習の知識・技術や自己学習を活かして考えながら積極的に学ぶことができるよう期待します。 看護の統合と実践の受講には、実習前に実習科目のすべての単位を修得している必要があります。